

令和2（2020）年度  
自己点検・評価報告書  
（抜粋）

鎌倉女子大学幼稚部

## 1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の園運営を行っているか。</li> </ul>
2020年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の実現に向け、保護者と連携を図りながら、日々の保育にあたる。</li> <li>・教育の質を高めるという意識を全教職員がもち、目標の達成に努める。</li> </ul>
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が広がっていたが、感染症対策を十分にとりながら、可能な限り、行事や普段の活動を実施するようにした。このことにより、感謝の気持ちと共に、保護者の理解と協力も十分に得られて、保護者と連携をとりながら保育をすることができた。</li> <li>・コロナ禍ではあったが、オンライン研修を受けたり、園内研修を計画的に行ったりして、教員の質を高めることができた。しかし、研修内容の報告をしあう機会を十分にもてず、教員間で共有し合うことはあまりできなかった。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍がしばらく続くと予想されるため、引き続き、感染症の予防対策をしっかりとりながら、教育目標の実現に向け、園の運営にあたっていく。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健康と安全を守り、保護者と連携をとりながら、教育の充実を図る。</li> <li>・全教職員が、質の高い教育を行うようにし、目標の達成に努める。</li> </ul>

1-②	・幼稚部の状況を踏まえ、重点化された中・短期の目標が定められているか。
2020年度の 取組目標	・保護者の理解や協力を得て、共に子育てを支えていく保育の在り方を考える。
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、気持ちが不安定になっている保護者が多く見られたため、感染症対策をとった上で、保護者と可能な限り面談の機会を持つようにした。そうすることで、共に子どもの成長を支えるという気持ちを持てるようにした。</li> <li>・コロナ禍における家庭での過ごし方について、相談にのったり、アドバイスをしたりすることで、保護者が安心して子育てができるように支えた。</li> </ul>
今後の課題	・コロナ禍での子育てに対して不安を持つ保護者もいるため、親子共に支えるという意識を持って保育にあたる。
2021年度の 取組目標	・保護者の気持ちを受け止め、保護者が安心して子育てができるように支えながら保育にあたる。

## 2. 教育課程

2-①	・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
2020年度の 取組目標	・3歳児から5歳児に向かったの連続性が、適切かどうかを細やかに見直す。
目標に対する 取組内容 と成果	・学期ごとの振り返りを全教職員で行うことで、学年ごとの教育内容を互いに把握するとともに、学年の連続性が適切かどうか、互いに意見を交わしあって学び合うことができた。
今後の課題	・これまで担当ではなかった学年を新しく受け持つ教員が数名いるため、担当が自分の担当学年の様子についてももしっかり把握していく。
2021年度の 取組目標	・担当学年の状況を適切に把握し、保育実践に生かす。 ・学年の連続性が、よりスムーズになるよう、学期ごとの振り返りで互いに学び合う。

2-②	・教育課程の実施に必要な年間の指導計画や週案などが適切に作成されているとともに、教育週数、1日の教育時間が適切に確保されているか。
2020年度の取組目標	・新型コロナウイルス感染症対策のため休園になったことを考慮し、子どもにとって無理のない教育時間を確保し、教育の充実を目指す。
目標に対する取組内容と成果	・コロナ禍の影響で休園期間もあったが、長期休業期間内での保育日数を増やしたことで、無理なく教育時間を確保することができた。
今後の課題	・今後も感染状況を、その都度適切に把握し、感染症の予防を十分に行いながら、教育時間を確保し、教育の充実を図るようにする。
2021年度の取組目標	・子どもの安全と健康を守りながら、教育時間を確保し、教育の充実を目指す。

## 3. 指導

3-①	・幼稚園教育要領の内容や学則にのっとり、幼稚部全体として、園児の発達段階に即した指導が適切に行われているか。
2020年度の 取組目標	・全教職員で、幼稚園教育要領の内容を共有し、指導に生かす。
目標に対する 取組内容 と成果	・幼稚園教育要領や学則にのっとり、園児の実態に即した指導を丁寧に行った。 ・新型コロナウイルス感染症に対応した教育の検討に時間を多く要し、週の打ち合わせのなかで、幼稚園教育要領に照らし合わせた話し合いについては、十分にできなかった。
今後の課題	・新型コロナウイルス感染症が、園児の発達や健康に影響が出ないよう、十分に考慮しながら、園児の発達段階に即した指導を行う必要がある。
2021年度の 取組目標	・コロナ禍であっても、幼稚園教育要領の内容や学則にのっとり、園児の発達がスムーズにいくよう、適切な指導を行う。

3-②	・日々の保育において遊具・用具の活用が図られているか。
2020年度の 取組目標	・定期的に、遊具や用具が活用されているかを確認できるように、月の計画で活用の仕方について検討する。
目標に対する 取組内容 と成果	・定期的に、遊具や用具の点検をし、活用の仕方を話し合うようにしたことで、子どもの活動に生かしていくことができた。
今後の課題	・今後も、園児の活動が充実するような遊具や用具の活用を図っていく。
2021年度の 取組目標	・今までの遊具や用具だけでなく、新たなものを取り入れて、教育内容の充実を図っていく。

3-③	・園行事が適切な管理体制及び教職員全体の協力体制の下に実施されているか。
2020年度の 取組目標	・新型コロナウイルス感染症に十分に気を付けて園行事を実施する。
目標に対する 取組内容 と成果	・感染症予防対策を適切に取りながら、可能な限り、園行事を実施した。実施の際は、事前に保護者への説明を十分に行ったため、保護者の理解と協力も得られ、スムーズに進めることができた。
今後の課題	・今後も引き続き、保護者の理解と協力を得るための努力をしながら、園行事を円滑に実施できるようにする。
2021年度の 取組目標	・園児の発達にとって必要な園行事の内容を吟味し、より有意義な行事を行う。



3-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。</li> <li>・幼小連携など園・学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。また、中・高等部との連携に関する取組がなされているか。</li> </ul>
2020年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの交流が、より有意義なものとなるように、事前の打ち合わせを丁寧に行う。</li> </ul>
目標に対する取組内容と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったため、交流の機会が例年より少なくなったが、数少ない交流の時間が少しでも互いに良いものとなるよう努力した。</li> <li>・初等部長による幼稚部保護者向けの説明及び質疑応答を行った。</li> <li>・中等部2年生が家庭科の保育内容を実践的に学べるように、幼稚部の園児とふれあう場を提供した。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染状況を適切に把握しながら、可能な限り交流の機会をつくるようにする。</li> </ul>
2021年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに有意義となるような交流の在り方を探り、吟味して実施する。</li> </ul>

3-⑤	・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
2020年度の取組目標	・新型コロナウイルス感染症の予防に努めながら、大学とのより良い連携に努める。
目標に対する取組内容と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修で大学の幼児教育専門の教員より指導を受けることができた。</li> <li>・教育実習については、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、実習生を受け入れた。</li> <li>・感染症の予防のため、教育実習以外では学生との交流は行わなかった。</li> </ul>
今後の課題	・交流の機会は、園児にとって有意義なものとなるため、機会を見て実施していく。
2021年度の取組目標	・大学の教員とも話し合いながら、可能な限り大学の教員・学生と幼稚部の教員・園児の交流の機会をもつ。

## 4. 保健管理

4-①	<p>・法定の学校保健計画が作成され、園児の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携し、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を十分に取りながら、保育活動を行う。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対応の校内研修を開催し、演習を通して適切に実施できるようにする。食物アレルギーのある園児について全教職員で情報を共有し、個別の取組プランの作成、緊急時の体制づくりを行う。</li> <li>・歯と口の健康づくりを通して園児と保護者の健康意識を高められるよう、保健教育の充実を図る。歯磨き指導後には、指導内容をまとめた臨時保健だよりを発行する。</li> </ul>
目標に対する取組内容と成果	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭とも連携して、感染予防対策を取ったことで、園内の感染を防いで、保育活動を行うことが出来た。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行状況を考慮し、対面での研修は見送り、文部科学省作成の研修資料（食物アレルギーに関する基礎知識と緊急時の対応、エピペンの使い方）を各教職員が視聴した。食物アレルギーのある園児については学校生活管理指導表をもとに個別プランを作成し、情報を共有した。</li> <li>・感染症予防の観点から歯磨き指導において歯ブラシは使用せず、パワーポイントを用いた指導を行った。う歯予防と歯みがきについてクイズを盛り込み、答えながら学べるよう工夫した。例年は歯磨き指導後に園でも昼食後の歯みがきを開始するが、本年度は実施せず、学んだことを家庭で実践するよう指導した。</li> <li>・歯科検診で歯肉炎と歯石沈着の増加が見られたため、歯磨き指導を待たずに保健だよりにて特集を組んだ。所見のある園児には個人面談時に担任からも治療を勧めた。3月1日時点での歯科治療率は前年より上昇し、94.4%である。</li> </ul>
今後の課題	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の場面でも、しっかり感染対策を取っていく。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時に各々の役割分担を明確にして行動できるよう、事故発生を想定した研修が必要である。</li> <li>・歯肉炎・歯周疾患は幼児本人では予防が難しく、気づくことができないため、保護者への情報提供と連携も必要となる。</li> <li>・本年度は歯科以外にも、視力検査と耳鼻科検診で受診報告のない家庭があった。特に視力は幼児期の発達がその後のQOLに影響があるため、早期受診に繋がりたい。</li> </ul>

2021年度の 取組目標	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・新年度も感染対策をしっかりと取りながら、保育活動を充実させていく。</li></ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・緊急時の体制づくりとして、アクションカードの導入を検討する。感染症予防対策を講じ、エビペン使用法について実技を含めた緊急時対応研修を実施する。</li><li>・歯科検診以降、ほけんだよりで毎月、歯と口の健康について取り上げ、継続して保護者に情報提供を行う。</li><li>・担任との協力の下、視力検査で受診をすすめた園児の受診報告率100%を目指す。</li></ul>
-----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5. 安全管理

5-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているとともに、園事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。また、園舎や通園路等の安全点検や教職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</li> </ul>
2020年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な環境となっているか、遊具や用具の使い方は適切かを、全教職員で確認しながら、保育にあたる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の予防に努めた環境のなかで保育にあたる。</li> </ul>
目標に対する取組内容と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育後の打ち合わせで、安全面での確認をするとともに、担当の職員が中心となって、定期的に遊具や用具を点検したため、大きな怪我や事故を防ぐことができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策にあたって、保護者に協力を仰ぎ、教員も、十分に気を付けながら保育を行ったため、園内での感染を防ぐことができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き感染症の予防に努め、園児の健康と安全を守りながら保育にあたる。</li> </ul>
2021年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古くなってきている遊具や用具が増えているため、確実に安全点検をしながら保育にあたる。</li> <li>・引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めた環境のなかで保育にあたる。</li> </ul>

5-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
2020年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、引き続き防災訓練を実施する。</li> <li>・岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。</li> </ul>
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部独自の避難訓練を6回、岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回実施した。さらに防災訓練内で消火器取扱い訓練を行った。新型コロナウイルス感染症対策として、本年度は訓練の際に消防署の立ち会いを行わない方針が鎌倉市から出されていたため、すべての訓練は立ち会いのない自主訓練の形式で実施した。</li> <li>・保護者対象の行事として、引取訓練を1回行った。</li> <li>・それぞれの訓練において、園児や保護者、そして教職員が安全確保のための基本行動を再確認することができた。</li> <li>・「塩おにぎりの日（昼食時に塩おにぎりだけを園児が食べ、食べ物の大切さを学ぶ催し。）や防災訓練後の備蓄食料配布等を通じて、園児の災害時の食事に対する意識を高めた。</li> <li>・岩瀬キャンパス全体で防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を実施し、行政機関への報告を行った。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、施設管理部、管轄消防署等と相談しながら、有事に対応できるような活動を今後も継続したい。</li> <li>・次年度は中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に建設中の新校舎に移転するが、岩瀬キャンパス全体として、初等部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、引き続き防災訓練を実施する。</li> <li>・岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。</li> </ul>

## 6. 組織運営

6-①	・部長（園長）など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
2020年度の 取組目標	・次長の交代も含めた新体制になるため、新たな教職員との関係を丁寧につくって組織運営を行っていく。
目標に対する 取組内容 と成果	・新しく次長になった教員と教職員との連携がうまくいかない場面も見られたが、部長（園長）が間を取り持つようにした。
今後の課題	・部長（園長）は、次長が適切に業務を遂行できるようサポートし、次長と教職員との連携が取れるよう日頃から良好な関係を築く。
2021年度の 取組目標	・管理職と教職員が良好な関係を築くことで、適切に組織運営を行っていく。

6-②	・園務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているとともに、職員会議等が園運営において有効に機能しているか。
2020年度の 取組目標	・新たな職員体制となるため、スムーズに運営されていくよう、互いに教え合い、協力し合い、温かい雰囲気のもと園務を進める。
目標に対する 取組内容 と成果	・次長と教職員間の連携には、部長（園長）のサポートが必要な場面もあったが、教員同士では互いに教え合い、協力し合う姿が見られた。
今後の課題	・割り当てられた業務を適切に遂行し、教職員間で協力し合える関係を築く。
2021年度の 取組目標	・部長（園長）、次長、学年主任のリーダーシップの下、温かい雰囲気の中で、互いに協力し合える職員体制をつくる。



6-③	・各種文書や個人情報などの幼稚部が保有する情報が適切に管理されるとともに、情報の取り扱い方針が教職員に周知されているか。
2020年度の 取組目標	・新たな職員体制となるため、情報管理に関する引き継ぎを行い、これまでどおりスムーズな管理ができるようにする。
目標に対する 取組内容 と成果	・情報管理に関して、管理職を通じて教職員に十分周知したことで、適切に情報の管理を行うことができた。
今後の課題	・新たな職員体制も2年目となるため、各々で適切に情報を管理するよう努める。
2021年度の 取組目標	・適切な情報管理ができているか、必要に応じて確認し、不備がないようにする。

## 7. 研修（資質向上の取組）

7-①	・全教員による保育研究会を行うことや、保育研究を継続的に実施することなどを通じ、指導改善に幼稚部全体で取り組んでいるか。
2020年度の取組目標	・より良い保育記録の取り方について、園内研究で学び合う。
目標に対する取組内容と成果	・より良い保育記録の取り方について、互いに記録の事例を出し合い、幼児教育専門の大学の教員による指導を受け、園内研究で学び合うことができた。
今後の課題	・引き続き、保育記録の取り方については、事例を出し合いながら学び続けるようにし、新たな課題にも取り組んでいくようにする。
2021年度の取組目標	・コロナ禍におけるより良い教育の在り方について、園内研究で学び合う。

7-②	・園内研修・園外研修の課題が適切に設定され、実施されているとともに、教職員が積極的に園内研修・園外研修に参加しているか。
2020年度の 取組目標	・研修会に積極的に参加し、事後の報告会のなかで、学んだことを教職員で共有する。
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったため、オンラインでの研修に積極的に参加するようにした。</li> <li>・研修参加数については個人差が見られたが、各種の研修に参加し、学びを深めることができた。</li> <li>・学んだことを報告し合い、共有し合う時間は十分に取れなかった。</li> </ul>
今後の課題	・全教職員が各自の課題をもって、確実に研修に参加し、学びを深められるようにする。
2021年度の 取組目標	・全教職員が、感染症の予防対策をしながら、対面やオンラインの園外研修に参加し、報告会を行うことで、学びを深める。

7-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部長（園長）等の管理職が定期的に保育観察を行い、教員の指導の状況を的確に把握するとともに、教員に対して適切な指導・助言をしているか。また、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。</li> </ul>
2020年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年のチームワークを大切にしながら、教職員全体でより良い保育ができる環境を部長（園長）が整えていく。</li> </ul>
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな職員体制1年目であったこと、コロナ禍における保育であったこと等により、各学年のチームワークを取りにくい場面もあったが、部長（園長）が適切な指導・助言を行いながら、保育内容を工夫し合って、より良い保育ができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々が自分に割り当てられた責任を果たし、全教職員でより良い保育ができるよう努める。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員が、自分の良さを発揮し、課題となることには努力をしながら、全教職員でより良い保育を目指す。</li> </ul>

## 8. 保護者・地域社会等との連携

8-①	・保護者が幼稚部に協力できる体制（教育ボランティア等）を整えているか。
2020年度の 取組目標	・保護者自身も楽しみながら参加し、できる範囲のことを無理なく行っていくボランティア活動とするために、これまでの内容の検討をする。
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「クローバーの会（園庭整備）」については、保護者の協力を得て進めることができた。</li> <li>・「コットンの回（手作り修繕）」「しおりの会（図書）」については、コロナ禍であったため、保護者の負担のない範囲で活動した。</li> <li>・「父の会」のボランティア活動については、中止とした。</li> </ul>
今後の課題	・感染症の予防対策は十分に行いながらも、次年度は、少しずつできることから再開していく。
2021年度の 取組目標	・感染状況を適切に見極めながら、必要に応じて「ふりーじあ役員会」「ボランティア活動」「父の会」などを再開し、幼稚部の活動に保護者の協力を得る。

8-②	・園公開を定期的に行っているか。
2020年度の 取組目標	・新型コロナウイルス感染症の予防対策をしながら、時期を考慮して園公開を行う。
目標に対する 取組内容 と成果	・コロナ禍ではあったが、感染症の予防対策を十分に行いながら、行事や教育活動の内容や方法を工夫して、園公開の機会をつくり、保護者にも満足して頂けた。
今後の課題	・次年度も、園公開を中止とするのではなく、どのようにすれば公開できるかを検討し、その都度、感染症の予防を十分に行いながら、工夫して実施する。
2021年度の 取組目標	・幼稚部の教育に対する理解を得るためにも、感染症の予防を十分に行いながら、園公開の機会をつくるようにする。

8-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の幼稚部への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。また、教育相談体制を整備し、保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。</li> </ul>
2020年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような意見も言いやすい雰囲気を作り、保護者との信頼関係を更に深めていく。</li> </ul>
目標に対する取組内容と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあっても、保護者の気持ちを大切に受け止め、可能な限り行事を行ったことで、保護者からは大変感謝され、行事後の感想でも、温かいお礼の気持ちが多数寄せられた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で保護者の不安などが増えていると感じるため、保護者の思いを丁寧に受け止め、適切に対応していくようにする。</li> </ul>
2021年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員で、保護者の思いを丁寧に受け止めて保育に生かし、保護者との信頼関係を深めていく。</li> </ul>

8-④	・園便りや学級便りの発行など、保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
2020年度の 取組目標	・便りの内容を十分に吟味し、読みやすい紙面を工夫する。
目標に対す る取組内容 と成果	・コロナ禍であることで、例年よりも「幼稚部だより」や「クラスだより」を頻繁に発行したり、メール配信を丁寧に行ったりして、情報の伝達や公開を適切に行った。
今後の課題	・新入園児の保護者に対しては、正しい理解を得るため、特に丁寧な説明が求められ、より細やかな配慮が必要である。
2021年度の 取組目標	・保護者の理解を得るために、各学年の必要に応じて、細やかに便りを発行したり、面談をしたりする。



8-⑤	・預かり保育の受入れ体制が十分に整っているととも、預かり保育の実施について、幼稚園の目的、教育課程との関連、園児の負担、家庭との連携等への配慮が適切になされているか。
2020年度の 取組目標	・共働き世帯を支援するために、預かり保育の時間を、登園前、降園後ともに延長する体制をとる。
目標に対する 取組内容 と成果	・コロナ禍であるが、感染症の予防対策をしながら、保護者の必要に応じて、登園前も降園後も預かり保育を行うことができた。行事の代休の日も、可能な限り預かり保育を行ったため、保護者からは大変感謝された。
今後の課題	・共働き世帯が増えてきているため、預かり保育は可能な限り、保護者の要望に沿っていくようにする。
2021年度の 取組目標	・保護者の要望を大切に受け止め、可能な限り要望に沿って預かり保育を行っていく。

8－⑥	・保護者の実情や要望による子育ての支援活動が適切に実施されているか。
2020年度の 取組目標	・手作り弁当の良さを大事にしながらも、共働き世帯の負担を軽くする方法も探っていく。
目標に対する 取組内容 と成果	・コロナ禍であったため、手作りお弁当を短時間で食べられるピクニック弁当とし、簡単なおにぎりやサンドイッチにしてもらったことで、保護者の理解も得られ、共働き世帯の負担も軽くすることができた。
今後の課題	・コロナ禍が続く限り、共働き世帯の負担が軽くなるお弁当の方法を取っていくようにする。
2021年度の 取組目標	・子育て支援をするために、何ができるのかを、その都度探りながら、適切に実施していく。

8-⑦	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
2020年度の 取組目標	・学年ごとに、地域の良さを生かした保育を考え、実践する。
目標に対する 取組内容 と成果	・コロナ禍であったため、5月は遠足で地域に出かけることができなかったが、6月以降は感染対策を徹底して、地域の教育資源を保育に生かすよう努めた。
今後の課題	・園児にとっても、地域の教育資源を生かすことは大切なため、感染状況を見ながら積極的に活用していく。
2021年度の 取組目標	・新型コロナウイルス感染症の感染状況を適切に見極めながら、地域の教育資源を活用していく。

## 9. 入試・広報活動（情報提供）

9-①	・ 幼稚部の教育活動について、説明会の実施、園案内の配布、ホームページの活用など、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。また、園児等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
2020年度の 取組目標	・ 共働き世帯の保護者にも選ばれる視点をもって、より幅広く広報活動を行う。
目標に対する 取組内容 と成果	・ 預かり保育が充実していることを、積極的に伝えたことで、共働き世帯の保護者にも幼稚部を選んでもらうことができた。
今後の課題	・ 今後は、2歳未満の子どもの預かり体制が課題となる。岩瀬キャンパス再整備計画を踏まえて、今後の検討課題とする。
2021年度の 取組目標	・ より広く多くの方に、幼稚部の良さを伝えるために、ホームページが更に効果的な広報媒体となるように工夫する。

9-②	・幼稚部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
2020年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部の募集業務補佐と支援の充実を引き続き行う。</li> <li>・募集人員充足に向け、見学会「ようこそその会」や公開行事・説明会等の運営支援や、電話・窓口等での入園希望者対応の充実を図る。</li> </ul>
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学会「ようこそその会」における受付や駐車場案内等の運営支援を行い、見学会参加者への対応を行った。</li> <li>・作品展や運動会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため外部への公開は行われなかったが、これまで同様運営補助を行った。行事の様子は幼稚部のホームページで紹介され、広報の一つとして扱われている。</li> <li>・見学会の申込や各種問い合わせに関する電話対応については、丁寧な対応を心掛け、幼稚部の高感度を上げるよう尽力した。</li> <li>・募集要項については、入園希望者にとって内容が分かりやすくなる様なレイアウトや表現を取り入れ工夫した。</li> <li>・募集活動の一つとして前年度より通園バスのルートを増設を行っており、現在も順調に運営されている。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校広報の中心である初等・中等教育統括部長や幼稚部管理者との連携を密にし、幼稚部の募集活動の支援充実に努める。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き幼稚部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。</li> <li>・募集人員充足に向けて、見学会「ようこそその会」や公開行事・説明会等の運営支援や、電話・窓口等での入園希望者対応の充実を図る。</li> </ul>

## 10. 教育環境整備

10-①	・保育内容・生活環境などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
2020年度の取組目標	・新型コロナウイルス感染症の予防の観点からも、環境を工夫していく。
目標に対する取組内容と成果	・手洗い場のレバーを改善、検温や消毒も使いやすい機器に変え、サーキュレーターや空気清浄機を兼用したりしたことで、より感染を防ぐ環境を作ることができた。
今後の課題	・更に良いものがあれば、保健センターに相談しながら、その都度取り入れるなどの努力をしていく。
2021年度の取組目標	・感染を防ぐ環境を作りながら、季節に応じて熱中症や寒さ対策なども適切に行えるように、環境を整えていく。

10-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
2020年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回を実施する。</li> <li>・業者委託業務による計画的な環境整備を行う。</li> <li>・創立80周年記念事業の岩瀬キャンパス再整備計画に伴い、環境に配慮した備品等の再利用を行う。</li> </ul>
目標に対す る取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。</li> <li>・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等も行った。</li> <li>・空調設備など設備機器の経年劣化による不具合への対応を行った。</li> <li>・創立80周年記念事業の中等部・高等部新築工事において、工事エリアを仮囲いで区画し、園児の安全を確保した。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。</li> <li>・委託業務の内容などが実情に合わせたものになるよう見直しを図る。</li> <li>・創立80周年記念事業としての岩瀬キャンパス再整備計画において、その内容を踏まえて、設備整備計画を見直し、実行する。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回を実施する。</li> <li>・業者委託業務による計画的な環境整備を行う。</li> <li>・創立80周年記念事業としての岩瀬キャンパス再整備において、環境に配慮した備品等の再利用を行う。</li> </ul>

10-③	・遊具・用具・図書等の整備や園教育の情報化が適切になされているか。
2020年度の 取組目標	・遊具・用具・図書等を有効活用するために、全教職員で定期的に整理する時間をもつ。
目標に対する 取組内容 と成果	・行事後などに、全教職員で必要に応じて遊具・用具・図書等を整理整頓したことで、有効に使うことができた。
今後の課題	・行事後に遊具・用具・図書等の整理整頓を行うと、より整備がしやすくなるため、今後も、この方法を続けていく。
2021年度の 取組目標	・全教職員で定期的に整理整頓をし、「充足しているもの」「整備する必要があるもの」を把握することで、幼稚部にある遊具・用具・図書等を有効に使う。



## 11. 事務支援体制

11-①	・ 幼稚部の教育活動における支援が適切に行われているか。
2020年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。</li> <li>・ 幼児教育無償化事業を含めた校納金の収納業務を支障なく行う。</li> <li>・ 通園バスの運行について、安全かつ正確に行われるよう対応を行う。</li> </ul>
目標に対する 取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓口での来校者対応や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。</li> <li>・ 前年度より幼児教育の無償化給付が始まっている。保護者の居住市町村ごとに事務処理を行うため前年度と同様に煩雑さは否めないが、経理部と協力し適正に処理を行っている。</li> <li>・ 校納金の収納について、これまで保護者の引落とし口座の金融機関により、引落とし日が異なり月に2日引落とし日が設定されていたが、本年度よりすべての金融機関で月1日に統一し業務の合理化を行った。預かり保育の料金も保護者の登録金融機関口座からの引落としにより徴収を行っており、こちらも順調に行われている。</li> <li>・ 前年度より新規に通園バスのコースを玉縄方面へ増設させ、問題なく運行されている。利用者の利便性や対外的な広報効果を意識し、引き続き対応を図る。</li> <li>・ 新入園児の制服採寸において、新型コロナウイルス感染症対策のため三密（密集・密接・密閉）を避けるべく、人数を時間ごとに制限しながら実施するなどの対応を図り、問題なく行うことができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も窓口や電話での対応に関して、適切かつ丁寧な対応を心掛ける。</li> <li>・ 幼児教育無償化事業を含めた会計処理全般について、引き続き支障なく行われる様尽力する。</li> <li>・ 通園バスの運行については、登・降園や遠足の送迎、大船キャンパス等への移動手段として利用の機会を増やしているが、更なるバスの有効活用を図っていく。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。</li> <li>・ 幼児教育無償化事業を含めた校納金の収納業務を支障なく行う。</li> <li>・ 通園バスの運行について、安全かつ正確に行われるよう対応を行う。</li> </ul>

## 12. 自己点検・評価

12-①	・自己点検・評価が年に1回以上定期的に実施され、全教職員が関与し、組織的に実施されているか。また、自己点検・評価の結果が具体的な園運営の改善に活用されているか。
2020年度の 取組目標	・新体制となるため、チームワークを大事にしたなかで、それぞれの教職員の力を発揮できるようにし、自己点検・評価も適切に行えるようにする。
目標に対する 取組内容 と成果	・新体制1年目という状況のなかで、特に、新任教員の教育活動については、適切な自己点検・評価を行い、本年度の経験から次年度における課題点や改善点を見つけることができた。
今後の課題	・すべての教職員が、自分の持てる力を発揮できるように、個人の課題を明確にし、長所は更に伸ばし、課題に向けて努力していくように励ます。
2021年度の 取組目標	・互いに励まし合い、教職員として成長していく雰囲気をつくり、教職員同士の関係がより良いものとなるようにし、自己点検・評価も適切に行えるようにする。